

ごみ搬入量の推移はどうなっているの？

単位：トン

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	(各年度4月～2月まで)		
青梅市	27,618.18	27,601.95	26,874.91
福生市	10,999.58	11,201.78	11,100.79
羽村市	11,215.56	11,302.27	11,028.14
瑞穂町	8,072.51	8,274.69	8,257.55
構成市町計	57,905.83	58,380.69	57,261.39
構成市町外	2,046.43	1,421.79	1,452.41
合計	59,952.26	59,802.48	58,713.80

ごみ焼却処理に伴う排出ガスの測定結果の状況は？

■ 排出ガス測定結果 下の表は、平成28年度の排ガス測定の結果です。全炉ともに、すべての項目において、法規制値ならびに公害防止協定期制値を下回っています。3号炉は、28年度実施の排ガス処理設備改良工事に伴い、工事前後のダイオキシン類への影響を調査するため、測定回数を増やしています（分析中）。

項目	硫黄酸化物	窒素酸化物	ばいじん	塩化水素	水銀	ダイオキシン類
単位	ppm	ppm	g/m <sup>3</sup> (N)	ppm	mg/m <sup>3</sup> (N)	ng-TEQ/m <sup>3</sup> (N)
法規制値	(約440)	250	0.08	430	—	1
公害防止協定期制値	30	50	0.02	25	—	0.5
公害防止協定期目標値	10	40	0.01	10	0.05	0.1
1号炉	H28.6.16	<1	16	<0.001	7	0.0020
	H28.9.13	<1	17	<0.001	8	—
	H28.10.4	<1	11	<0.001	8	<0.005
	H29.1.12	<1	26	<0.001	7	—
2号炉	H28.7.25	<1	22	<0.001	7	0.0012
	H28.8.9	<1	21	<0.001	5	—
	H28.12.8	<1	35	<0.001	9	<0.005
	H29.2.17	分析中	分析中	分析中	分析中	—
3号炉	H28.4.27	<1	33	<0.001	7	<0.005
	H28.5.18	<1	33	<0.001	6	—
	H28.11.24	<1	39	<0.001	9	0.007
	H29.3.2	分析中	分析中	分析中	分析中	—

◎ 赤字の測定結果は、「排ガス処理設備改良工事」前の値です。

■ 大気環境中のダイオキシン類測定結果 (単位:pg-TEQ/m<sup>3</sup>)

採取場所	平成27年度				平成28年度	
	6月	12月	1月	2月	6月	12月
環境基準値	0.6					
羽村市立羽村第三中学校	0.0089	0.033	0.032	0.039	0.0083	0.011
羽村市立松林小学校	0.0098	0.032	0.015	0.016	0.0080	0.010
羽村市立あさひ公園	0.0093	0.032	0.031	0.034	0.010	0.011
瑞穂町立瑞穂第四小学校	0.0092	0.036	0.018	0.035	0.0085	0.0086
瑞穂町富士見公園	0.0095	0.037	0.045	0.035	0.010	0.011

左の表は、西多摩衛生組合周辺の大気環境中のダイオキシン類測定結果です。排ガス処理設備改良工事の影響を調査するため、平成26年度から3年間は、通常年2回の測定に対して、全炉停止時と工事終了後の測定分を2回増やし、年4回実施しています。(28年度1・3月分は分析中) 測定結果は、各地点とも環境基準値を下回っており、改良工事による環境への影響はないものと判断しています。

編集・発行 西多摩衛生組合 2017年3月発行【No.23】

(構成団体 青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町)

■ 西多摩衛生組合環境センター

住所：〒205-0012 東京都羽村市羽4235  
TEL：042-554-2409 FAX：042-554-2426

■ フレッシュランド西多摩

住所：〒205-0012 東京都羽村市羽4225  
TEL：042-570-2626 FAX：042-570-2288



西多摩衛生組合  
ホームページ

<http://www.nishiei.or.jp>



公害防止協定に基づき、ごみ焼却に伴う排出ガスの測定結果などを公開します！

～環境データの詳細はホームページで公表しています～

平成29年2月末現在、構成市町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）から搬入された燃やせるごみの量は、57,261.39トンで、前年同期（58,380.69トン）と比べ1,119.30トン、1.9%の減量となっています。また、平成28年度に小金井市から受入れた可燃ごみは、平成29年2月末現在、1,452.41トンです。広域支援を含めた全体量は58,713.80トンで、前年同期（59,802.48トン）と比べ、1,088.68トン、1.8%の減量となっています。

西多摩衛生組合

2017年3月発行  
No.23



フレッシュランド西多摩に太陽光パネル・蓄電システムを設置！！



フレッシュランド西多摩は、平成27年10月に構成市町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）の二次的避難所に指定され、災害時には、各構成市町からの開設依頼に基づき、地域の避難所として活用されます。これに伴い、フレッシュランド西多摩の防災機能を高めるため、太陽光パネル・蓄電システムおよび非常用街路灯の設置を行いました。

■ 太陽光パネル・蓄電システムの設置

再生可能エネルギーを活用し、発電した電力をフレッシュランド西多摩へ送電するため、組合敷地内に太陽光パネル（発電出力：15kW）と蓄電システム（容量：30kWh）を設置しました。これにより、災害等による大規模停電時にも、館内照明などに最低限必要な電力を確保でき、避難所としての機能が高まります。フレッシュランド西多摩の館内に設置されたモニターで、太陽光パネルによる発電・蓄電量が確認できます。ご来館の際は、ぜひご覧ください。



\* 太陽光パネル・蓄電システム・モニターは、環境学習などに活用していきます！！

■ 非常用街路灯の導入



敷地内に設置されている街路灯4台を、停電時でも消えない非常用LEDの街路灯に改良しました。この街路灯は、内蔵されたバッテリーにより、災害等による大規模停電時でも3日間ほど点灯でき、敷地内の誘導灯として活用できます。

■ 非常用マンホールトイレと防災倉庫の整備

2月議会で平成29年度当初予算が可決されました。

フレッシュランド西多摩の防災拠点としての機能を高め、避難所開設時に快適で衛生的な生活環境を確保することを目的に、非常用マンホールトイレと防災倉庫を整備します。

\* フレッシュランド西多摩からのお知らせ・・・法令点検および定期補修のため、平成29年4月10日(月)～14日(金)は、臨時休館します。

昭島市からの「可燃ごみの共同処理について(依頼)」に関する調査・検討結果

西多摩衛生組合構成市町へ調査・検討結果(3項目)を回答しました

平成28年1月28日付けで、昭島市から西多摩衛生組合の構成市町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）に対し、西多摩衛生組合（一部事務組合）への加入による可燃ごみの共同処理に関する依頼がありました。これを受け、平成28年2月2日に構成市町長による会議が開催され、基礎的自治体である構成市町において、今後、協議を進めていく際の判断要件とするため、①技術的措置対応、②財政面への影響、③組合周辺住民の意見集約等の3項目に関して調査・検討するよう当組合に依頼がありました。当組合では、羽村・瑞穂両協議会と意見交換を行いながら、依頼項目に関する調査・検討を進め、組合運営に関わる諸会議を経て、去る平成29年1月30日に開催された構成市町長会議において、3項目の調査・検討結果の報告をもって回答しました。今後は、この調査・検討結果を判断要件のひとつとして、構成市町間で共同処理の可否などについて協議が行われます。

# 環境センターの第1期基幹的設備改良工事が完了しました

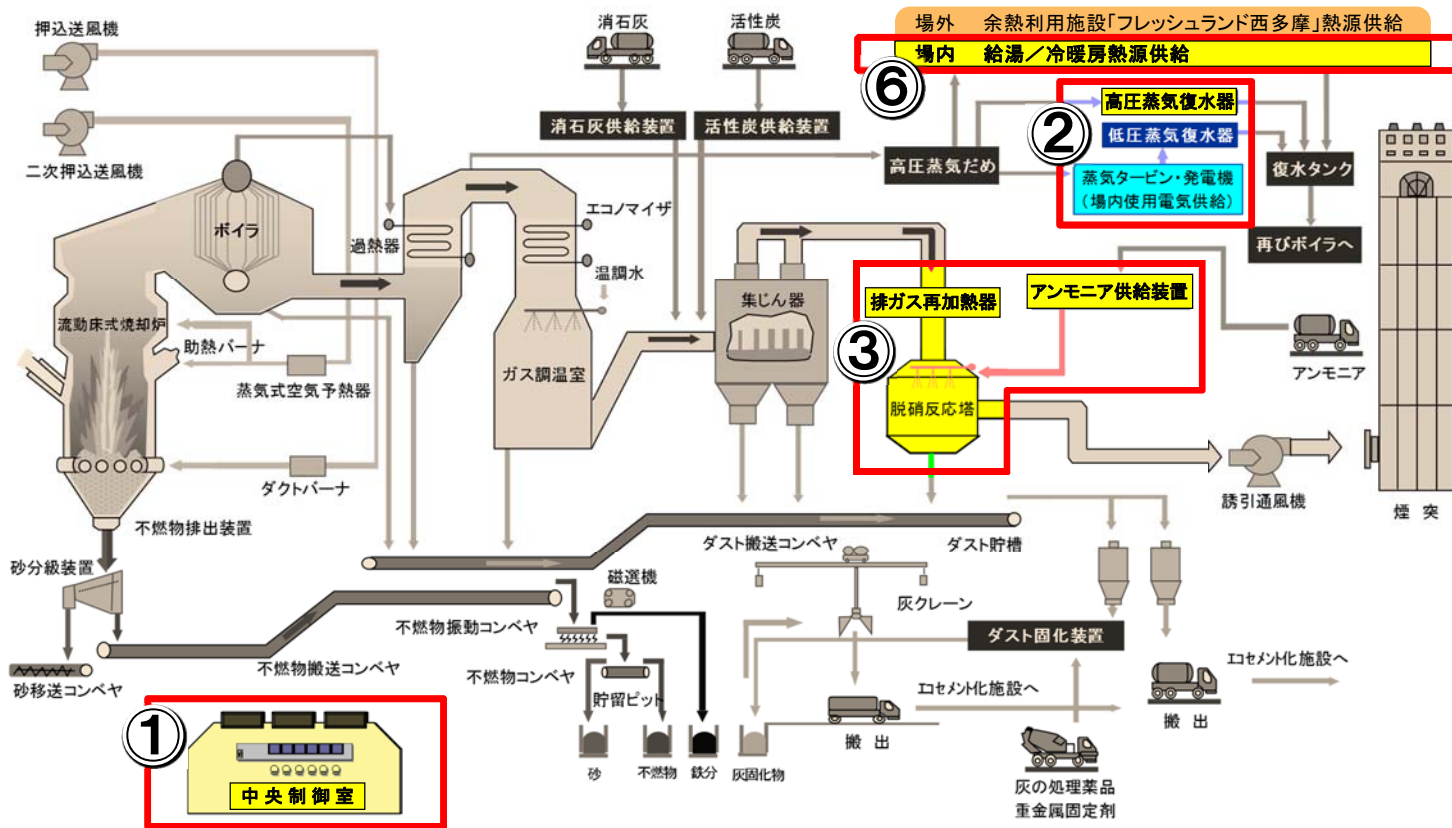
西多摩衛生組合では、ごみ処理施設の経年劣化に適切に対処し、構成市町から排出される可燃ごみを安全かつ安定的に処理していくため、平成24年11月に環境センター長寿命化計画を策定しました。この計画は、環境センターの稼働後15年目を迎える、平成25年度から28年度までの4年間をかけて「第1期基幹的設備改良工事」を実施するとともに、施設稼働後30年目を迎える平成40年度頃に「第2期基幹的設備改良工事」を実施することにより、平成50年度までの施設稼働を目指すものです。

第1期基幹的設備改良工事は、重要設備の更新により施設の性能劣化の回復を図るとともに、施設の延命化と、さらなる環境負荷の低減を目的として実施しました。

環境センターは、4か年にわたる改良工事の結果、最新の清掃工場の処理設備と比べても遜色のない水準まで機能改善が図られました。ここでは、6つの改良工事の概要と効果について紹介します。

## 〔主な工事の効果〕

- ◎ 蒸気の活用方法を見直し、蒸気を発電側へ優先的に有効利用する改良を加え、発電量増加により購入電力を削減
- ◎ CO<sub>2</sub>排出量削減効果の高い設備改修の実施により、地球温暖化防止対策を推進
- ◎ 排ガス再加熱器の撤去によるダイオキシン類の再合成の防止、設備改良による排ガス処理性能の向上



## CO<sub>2</sub>排出量と購入電力削減の想定効果

CO<sub>2</sub>排出量 : 約17% 削減 ↓  
 購入電力量 : 約200万 kWh/年 削減 ↓ (一般家庭561世帯分に相当)  
 購入電力料金 : 約3,274万円/年 削減 ↓

注：④、⑥の改良工事は、施設全体に関わる通風・電気設備を改良する工事のため、図中に表現されていません。

## 小金井市の可燃ごみ受入れは平成29年3月で終了します

多摩地域ごみ処理広域支援体制実施協定に基づき、西多摩衛生組合で実施してきた小金井市の可燃ごみの受入れは、平成29年3月をもって終了します。

平成29年度以降は、不測の事態がない限り、小金井市の近隣市または清掃一部事務組合（小金井市の所属する第2ブロック内）で支援処理される予定です。

なお、現在、日野市、国分寺市、小金井市による「浅川清流環境組合」が設立され、平成32年度からの共同処理に向けて、新施設の建設事業が進められています。



### 「自動燃焼制御装置」改良工事 平成25年度実施

自動燃焼制御装置は、ごみ焼却施設の監視、運転操作、データ処理などを行う最も重要なコントロール装置です。この工事では、老朽化した計装コンピュータを最新の機材に更新し、機能回復を図るとともに、各種改良工事に関連し、制御プロセスなどを見直すことにより、省エネルギー化を図りました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 0.15% 削減 ↓  
 購入電力量 : 1万8,221kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 29万2,000円/年 削減 ↓



### 「高圧蒸気復水器」改良工事 平成26年度実施

高圧蒸気復水器は、発電に使用する高圧の蒸気を、タービンの停止時にファンで冷却して水に戻す装置で、焼却炉運転時には、配管の損傷を防ぐため、蒸気の熱で温める暖管が必要でした。この工事では、高圧蒸気復水器を撤去して、低圧蒸気復水器を新たに設置し、配管などを改造することで、これまで暖管に利用していた蒸気を、発電に有効利用できるようにしました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 0.24% 削減 ↓  
 購入電力量 : 50万4,000kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 806万4,000円/年 削減 ↓



### 「排ガス処理設備」改良工事 平成26・27・28年度実施

排ガス処理設備は、脱硝反応塔で窒素酸化物を分解除去する際の化学反応を促すため、加熱器で排ガスの温度を蒸気の熱で約230℃に温めるための装置です。この工事では、脱硝反応塔の触媒の表面積を増やし、窒素酸化物の分解除去機能に改良を加えることで、排ガスの再加熱を不要にしました。これにより、排ガス再加熱器で使っていた蒸気を、発電に有効利用できるようにしました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 9.90% 削減 ↓  
 購入電力量 : 117万6,000kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 1,881万6,000円/年 削減 ↓



### 「空気圧縮機共通化等」改良工事 平成28年度実施

空気圧縮機は、工場内で使用する圧力を持った空気を作るための機械で、雑用空気圧縮機と計装用空気圧縮機の2系統の空気の通り道があり、それぞれ、異なる動きをしていました。この工事では、2つの空気の通り道を統一することで、運転台数を削減(7台⇒5台)し、さらに、節電効果の高い機器へ変更することにより、省エネルギー化を図りました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 0.88% 削減 ↓  
 購入電力量 : 10万4,160kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 166万7,000円/年 削減 ↓



### 「電力系統連系」改良工事 平成28年度実施

電力系統連系とは、環境センターの電気設備を電力会社の電力網に接続することを意味し、これまでは、自家発電した電力を電力会社へ送電(売電)できないシステムでした。この工事では、基幹的設備改良工事の効果により発電電力の増加が見込まれたことから、受変電設備を改造し、余剰電力を電力会社へ送電(売電)できるようにしました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 0.92% 削減 ↓  
 購入電力量 : 10万9,500kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 175万2,000円/年 削減 ↓



### 「空調熱源等」改良工事 平成28年度実施

空調熱源等とは、空調機器の冷暖房用の熱源などを意味し、これまでは、ごみ焼却に伴う熱を利用してつくった蒸気を熱源として用いていました。この工事では、これまでの蒸気式の空調機器に代え、最新の電気式の機器を採用することで、これまで空調熱源に使用していた蒸気を、発電に有効利用できるようにしました。

想定効果  
 CO<sub>2</sub>排出量 : 1.13% 削減 ↓  
 購入電力量 : 13万4,000kWh/年 削減 ↓  
 購入電力料金 : 215万円/年 削減 ↓

※：①～⑥の写真は、基幹的設備改良工事後の各設備の写真です。

## ■ 小金井市の可燃ごみ受入れ実績

年度	受入期間	受入量	契約量
19	平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日	6,931.51トン	10,000トン以内
20	平成20年4月1日 ~ 平成21年2月28日	4,319.68トン	4,800トン以内
25	平成25年12月20日 ~ 平成26年3月31日	1,512.36トン	2,000トン以内
26	平成26年8月1日 ~ 平成27年3月31日	2,442.68トン	3,000トン以内
27	平成27年4月1日 ~ 平成28年3月31日	1,881.32トン	2,000トン以内
28	平成28年4月1日 ~ 平成29年3月31日	1,452.41トン(2月末現在)	2,000トン以内

